

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		1 ごはんを中心とした食生活の改善					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(1) ごはんを中心とした食生活の推進に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	- 朝食を欠食する児童生徒を、平成13年度の11.3%から0%を目指す - 幼児、児童、生徒の肥満児の割合を、平成15年度の16.7%から7%以下にすることを旨とする 目標 平成16年度 16.0% 実績 15.1% 平成17年度 15.0% 15.9% 平成18年度 13.4% 15.8% 平成19年度 11.8% 14.6% 平成20年度 10.2% 平成21年度 8.6% 平成22年度 7.0% - 脂肪や油脂をとりすぎない食生活を目指す			実 績		評 価	
				①朝食欠食状況調査と②肥満状況調査については、二つを「食生活等状況調査」として一体的に実施した。 調査結果の中で特徴的な部分として、夜食を摂る比率が年々高くなる傾向があり、これらが結果的に肥満比率が思うように下らない一因となっていると考えられる。 朝食欠食率は、毎日食べる比率が0.9ポイント上昇してる。(92.3%→93.2%) 評価として、肥満の比率が平成19年度目標値に達しなかったことから△とした。		△	
実 施 計 画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額(千円)	決算額(千円)	進 捗 状 況 等
	①	朝食欠食状況調査の実施	3歳から14歳までを対象	年1回実施 対象者1,702人	248	47	10月～12月、幼児から中学校生徒(対象者1675人、回答1564人)を対象に実施
	②	肥満状況調査の実施	3歳から14歳までを対象	年1回実施 対象者1,702人	0	0	10月～12月、幼児から中学校生徒(対象者1675人、回答1564人)を対象に実施
	③	朝ごはん標語の看板設置	新設、補修等	随時実施	150	0	幼稚園、保育所、児童館、各小中学校には設置済み。H19年度では補修実績は無し。
	④	ごはんの大切さ啓蒙チラシ配布	毎戸配布	年2回実施	150	90	①及び②の調査結果をダイジェスト版として3000部作成。
	⑤	朝ごはん運動の推進啓発活動	教養講座及び成人式などの開催時	年10回実施	63	28	11回実施(教養講座8教室、英会話教室前期、後期、これだけは知っておきたい英会話)
	計				611	165	

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		1 ごはんを中心とした食生活の改善							
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(2)家庭での食に対する理解の促進に関する事項							
ガイドライン	・ 1日当たりの塩分摂取量を、平成15年度の13.2gから10.0g未満を目指す ・ 1日当たりの野菜摂取量を、平成14年度の217.3gから350.0g以上を目指す ・ 毎日1個のりんごを食べる			実 績			評 価		
				1日当たりの塩分摂取量が目標12.0gが0.7g多く摂取となった。 「食卓に増やそう野菜 減らそう塩分」は意識して継続的支援が必要である。			✕		
実施計画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等		予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	食卓に増やそう野菜減らそう塩分運動の推進	普及啓蒙活動	年25回実施		70	84	18回実施	保健福祉課
	②	野菜を使った料理教室の実施	各地区を対象に実施	年10回実施		50	48	1～2月に12地区で実施	保健福祉課
	③	離乳食教室の開催	4か月、10か月児の母親を対象に実施	各月1回実施		30	28	毎月各1回実施	保健福祉課
	④	減塩教室（県立保健大学と共催）の開催	18年度減塩教室参加者を対象にフォロー教室を開催	目標参加者数30人		16	6	12月に実施し、13人参加	保健福祉課
	⑤	塩分濃度調査の実施	一般町民を対象にみそ汁調査の実施	年1回実施 実施目標数800件		3	3	2月実施750件調査 みそ汁塩分濃度0.89%	保健福祉課
	⑥	尿中塩分検査の実施	基本健康診査受診者	年1回実施 対象者2,200人 目標 平均12.0g		525	452	実施者数2,151人 平均塩分摂取量12.7g	保健福祉課
			計			694	621		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		1 ごはんを中心とした食生活の改善					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(3) 安全な食品を選択するために必要な正しい知識の習得の支援に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・食生活と栄養に関する学習の場を増やす ・安全な食品に対する情報提供の場を増やす			実 績		評 価	
				・地区伝達講習会については、食生活改善推進員の努力により年々内容が充実しており、予算の範囲内で予定以上の回数が実施された。 ・①及び②の結果から、評価を△とした。		△	
実 施 計 画	事 務 事 業 名	事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	① 専門講師による学習会の実施	町民を対象に実施	年1回実施	100	0	文化講演会の講師が服部幸應先生であったことから、講師の選定と時期的なものを考慮してH19年度は行わないこととした。	保健福祉課
	② 地区伝達講習会の実施	食生活改善推進員による安全な食品及び栄養に関する情報提供	年10回実施	50	48	12地区実施、184人参加	保健福祉課
	③ 5 A D A Y食育体験ツアー	スーパーマーケットでの買い物体験や食生活指導などによる食育を実施	各小学校で実施	0	0	梅沢小学校の3年生16名が10月10日に柏力ブセンターで実施	教育委員会
	計			150	48		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		2 早寝、早起き運動の推進						
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(1)規則正しい生活習慣の促進に関する事項						
ガ イ ド ラ イ ン	・酒は1日1合程度で週に2日の休肝日を目指す ・1日10,000歩のウォーキングを目指す (年齢や健康状態で歩数を個人で調整) ・喫煙者の減少を目指す ・1年に1回は健康診査の受診を目指す 2000実績 県下順位 2009目標 基本健康診査 50.5% 28 85%以上 胃がん検診 43.2% 17 73%以上 大腸がん検診 46.9% 14 83%以上 肺がん検診 85.7% 1 90%以上 子宮がん検診 45.7% 2 70%以上 乳がん検診 49.5% 3 72%以上 ・鶴田町健診率県No.1推進対策委員会の設立と各町内に地区委員会を組織することにより受診率向上を目指す ・十分な休養と睡眠を取りストレスの軽減を目指す			実 績			評 価	
				・県下40市町村中の順位も2005年度より2006年度は各健(検)診とも上昇し肺がん検診は首位を維持 ・町健診率県No.1推進対策委員会の設立と44地区に地区委員会を組織化した。 2006実績 県下順位(2005) 基本健康診査 61.5% 3(4) 胃がん検診 52.4% 3(4) 大腸がん検診 57.9% 3(4) 肺がん検診 84.6% 1(1) 子宮がん検診 41.0% 3(15) 乳がん検診 50.2% 6(5)				
実 画			事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額(千円)	決算額(千円)		進 捗 状 況 等
	①	町民ウォーキングの実施	津軽富士見湖一周 ほか	年3回実施 参加目標者数250人	0	0	4/15,5/5,6/17,7/15,8/19,9/16 実施 参加者数224人	保健福祉課
	②	生活習慣病予防学習会の実施	各地区で随時実施	年25回実施	246	207	30回実施 参加者数1,601人	保健福祉課
	③	健康診査の実施	基本健康診査	目標受診数 2,307人(71.0%)	20,222	13,755	対象者数3,234人 受診数2,117人(65.9%)	保健福祉課
			胃がん検診	目標受診数 1,964人(61.0%)	9,072	7,344	対象者数3,224人 受診数1,786人(55.4%)	
			大腸がん検診	目標受診数 2,369人(67.0%)	4,138	3,094	対象者数3,549人 受診数2,152人(60.6%)	
			肺がん検診	目標受診数 4,012人(90.0%)	3,673	2,657	対象者数4,482人 受診数3,627人(80.9%)	
			子宮がん検診	目標受診数 725人(53.0%)	3,225	3,560	対象者数1,624人 受診数 652人(40.1%)	
			乳がん検診	目標受診数 735人(60.0%)	3,444	2,375	対象者数1,314人 受診数 652人(49.6%)	
	④	地域体験活動事業	ジュニアリーダー研修会で体験学習	年1回実施 参加目標者数40人	191	68	7月26日～27日開催 参加者20名	公民館
通学合宿で体験学習			年1回実施 参加目標者数25人	69	69	9月17日～22日開催 参加者21名	公民館	
⑤	子どもの生活リズム向上のための調査研究	子どもの生活リズム向上推進委員会による調査研究	調査年1回実施 会議年6回開催	0	1,323	アンケート 2回、会議 10回実施(文部科学省委託事業)	教育委員会	
⑥	朝の10分間読書	町内全小中高等学校で実施	毎日実施	1,890	1,890	毎日実施	教育委員会	
計					46,170	36,342		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針			2 早寝、早起き運動の推進					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目			(2)就寝及び起床の標準時間に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・ 幼児期 睡眠は、現状が9時間程度であるが、11時間以上を目指す 就寝は、午後8時までを目指す ・ 学童期低学年 起床は、学校が始まる2時間前を目指す 就寝は、午後9時までを目指す ・ 学童期高学年 起床は、学校が始まる2時間前を目指す 就寝は、午後10時までを目指す ・ 中学生、高校生 睡眠は、7時間以上を目指す 起床は、朝ごはんの時間を含めた余裕のある起床時間を目指す			実 績			評 価	
				小学校3年においては9時以降就寝が7割以上、5年生では10時以降就寝が3割以上みられ、ガイドラインで示す目標まではまだまだ啓発が必要。 また、1ページの「食生活等状況調査」において、幼児の就寝時間が小学校低学年よりも遅く(9時以降就寝が77.4%)、同時に起床も遅い傾向にあることが顕れている。遅寝遅起きを習慣化させないためにも、幼児期から正しい生活習慣を身に付けさせる必要がある。				
実 施 計 画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額(千円)	決算額(千円)	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	就寝、起床時間の調査の実施	全児童、生徒を対象	年1回実施	0	90	小学3年163人、5年143人、 中学2年155人／計461人対象 7月(現状)、11月(変化)の2回 実施 (ダイジェスト版3000部作成)	教育委員会 保健福祉課
	②	早寝、早起き運動の実施	チラシ等による啓発	年3回実施	0	0	各種会合等で随時実施	教育委員会
			各小中学校の校長、養護教諭、学校職員による児童、生徒への周知	随時実施	0	0	随時実施	
	計					0	90	

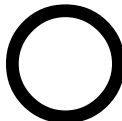
平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基本方針		3 安全及び安心な農産物の供給					
ガイドライン項目		(1) 農薬等の適正な使用及び管理の徹底に関する事項					
ガイドライン	・食用作物等への農薬使用について、農薬登録時に定められた基準である適用作物の単位当たり使用量の最高限度又は希釈倍数の最低限度、使用時期、使用総回数を順守し安全・安心な産地づくりを推進する			実績		評価	
				食品衛生法の改正により、平成18年5月29日からポジティブリスト制度が導入されたことから、農薬使用講習会の際に制度の周知と農薬飛散防止技術研修などを開催した。		○	
実施計画	事務事業名	事務事業内容	実施目標等	予算額(千円)	決算額(千円)	進捗状況等	担当課
	① 農薬使用技術講習会開催	農事振興会及び防除組合等を対象に農薬使用技術講習会を開催し、農薬使用基準の遵守を図る	年1回開催	0	0	JA研修会(共防連現地散布研修6ヶ所) 5月2日 6月20日 7月18日 参加者延べ100人 共防連幹部研修会 7月25日 参加者80人 産直友の会講習会 5月30日 参加者98人	産業観光課
	② ポジティブリスト制度の啓蒙活動	農薬使用基準等や飛散防止に係わる情報の提供	年1回配布	0	0	『農事普及だより』6回配布 ほか水稻現地講習会 7月10日4か所で実施 参加者112人	産業観光課
	計			0	0		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針			3 安全及び安心な農産物の供給					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目			(2) 農産物の生産履歴の記帳に関する事項					
ガイド ライン	・生産履歴の公開と流通情報も組み込んだトレーサビリティ（追跡可能）を図り、消費者の求める表示内容の正確性、信頼性に対応するため生産者は農産物の安全性をアピールし、付加価値を付ける			実 績			評 価	
				農産物の安全性と消費者への信頼性確保のため、トレーサビリティの検討会と「あるじゃ産直友の会」を中心とした生産履歴等の研修会を開催した。				
実施 計画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	トレーサビリティの強化	各関係機関との検討会及び情報交換会の開催	年2回開催	0	0	水稲現地講習会 7月10日4か所で開催 参加者112人	産業観光課
	②	農産物等の生産履歴記帳及び適正農業規範（GAP）の推進	研修会等の開催	年1回開催	0	0	産直友の会研修 7月25日70人参加	産業観光課
	計				0	0		

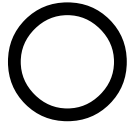
平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針			3 安全及び安心な農産物の供給					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目			(3) 食品表示の適正化の推進に関する事項					
ガイ ド ラ イ ン	・農林物資の規格及び品質表示の適正化に関する法律（改正ＪＡＳ法）のもと有機農産物及び有機農産物加工食品のＪＡＳ規格について、生産方法及び表示を明確化することにより信頼性を確保し農産物等の価値を正当に評価される活動を展開する			実 績			評 価	
				消費者への信頼性確保のために、つがる農産物加工センターの職員を講師にＪＡＳ法・食品衛生法に関する漬け物の表示の講習会や真空包装に関する実習、あるじゃ産直友の会で農産物表示の研修会を実施した。				
実 施 計 画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	食品表示に関する講習会	各種食品表示に関する講習への参加	随時	0	0	生活改善グループ協議会 8月23日10人	産業観光課
	②	農産物生産に関する表示適正化	農協やあるじゃ等と連携を図りながら表示に関する指導活動	年2回実施	0	0	あるじゃ産直友の会 5月30日98人 7月25日70人	産業観光課
	計				0	0		

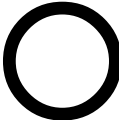
平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基本方針		3 安全及び安心な農産物の供給					
ガイドライン項目		(4) 環境にやさしい安全及び安心な農産物の生産体制の強化に関する事項					
ガイドライン	・特別栽培農産物に対する消費者の信頼確保と生産者の生産意欲向上を図り環境にやさしい農業に取り組む産地を育成する ・土づくり、化学肥料、化学農薬の使用低減を行い持続性の高い農業生産方式の導入を推進する			実績		評価	
				農産物認証制度の認定については、前年度よりも1つ増となった。エコファーマー認定制度については認定切れになった農家については再認定申請の意向があり、手続きしているところである。有機の郷づくりについては認定農業者等協議会が稲わら焼却防止宣言をし、環境保全農業を実施している。			
実施計画	事務事業名	事務事業内容	実施目標等	予算額(千円)	決算額(千円)	進捗状況等	担当課
	① 青森県特別栽培農産物認証制度の推進	県関係機関及び農協と連携を図りながら農産物認証制度への誘導	目標認証農家15戸	0	0	認証12(個人及び団体)	産業観光課
	② エコファーマー認定制度の推進	県関係機関及び農協と連携を図りながら認定者を増やす	目標認定者150戸	0	0	認定者138人	産業観光課
	③ 有機の郷づくり推進事業	農業生産団体が土づくり等の環境保全農業活動を行なう	随時	105	0	認定農業者等協議会が環境保全農業を実施	産業観光課
	④ 日本一健康な土づくり農業実践事業	土づくり実践基本調査の実施	農業組織を対象に調査1回	200	48	5月中旬から6月上旬にかけて実施	産業観光課
	計			305	48		

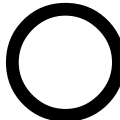
平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		3 安全及び安心な農産物の供給					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(5) 食品の安全及び安心に係る消費者への情報提供に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・農政改革大綱において消費者の視点を重視した食糧政策構築の観点から消費形態の多様化や味、鮮度、健康、安全性に対する事項について情報提供する			実 績			評 価
				中国製餃子の殺虫剤混入事件後に、スチューベンぶどうやりんごの品質に関する情報を町民（消費者）に提供した。			
実 施 計 画	事 務 事 業 名	事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	① 食品の安全及び安心に係る情報	地域住民へ町機関誌並びにチラシやパンフレットなど活用して農産物の安全・安心の理解を求める	随時	0	0	『食品の安全・安心』情報を毎戸に配布	産業観光課
	計			0	0		

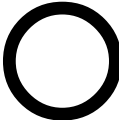
平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針			4 鶴田町において生産された農産物の当該地域内における消費（以下「地産地消」という。）の推進					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目			(1)地産地消の推進体制の整備に関する事項					
ガイド ライン	・各種農業団体と連携し地場産品の生産振興及び消費拡大を図る ・地場産品等の生産振興及び加工品の開発を図る			実 績			評 価	
				町のグリーンツーリズムの情報発信拠点施設である「鶴の里あるじゃ」を核として、町内に点在する各観光農園のネットワークを構築し、情報の共有化を実現するために、研修会の開催やパンフレット・のぼりを作成した。また、新商品として鶴田産小麦を使用したパンの製造販売				
実 施 計 画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	地場産品の生産振興の推進と消費拡大	観光農園組織の育成	視察・講習会等を開催	0	501	検討会・研修会の開催 観光パンフレット2000部作成 P R用のぼり作成3 6本作成	産業観光課
	②	大豆・米加工施設の利用促進	利用状況等により新商品開発	随時	0	0	鶴田産小麦「ゆきちから」使用したパンを製造・販売	産業観光課
	計				0	501		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針			4 鶴田町において生産された農産物の当該地域内における消費（以下「地産地消」という。）の推進					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目			(2)町民による鶴田町において生産された農産物（以下「地場産品」という。）の積極的使用に関する事項					
ガイド ライン	・マーケティング・リサーチ活動を実施し、地場産品の把握及び販売の強化について 方策を立てる			実 績			評 価	
				本町産の認証米「鶴の輝き」をはじめ、大豆加工品については店頭販売は元より、学校給食等への利用など消費の拡大が図られた。農家女性を対象にした料理教室では、小麦を使ったうどん、パスタ、中華そばの麺類に挑戦し好評であった。				
実 施 計 画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	青森県特別栽培農産物認証米「鶴の輝き」の生産及び消費拡大	当町産の認証米を農協・あるじゃの加工施設で商品化し消費拡大を図る	あるじゃ2,100kg・学校給食14,000kg・町内小売店他8,640kg	0	0	加工量23,610kg 内訳 学校給食 13,873kg 店頭 7,457kg 業者卸 2,280kg	産業観光課
	②	転作生産された大豆加工品の消費拡大	当町産の大豆をあるじゃ加工施設で商品化し消費拡大を図る	8,900kgをあるじゃ米大豆加工施設で豆腐、テンペ等に加 工し販売する	0	0	大豆18,000kgの内 加工量11,610kg 内容：豆腐関連39,872丁 テンペ1,278kg 味噌484kg 豆乳ソフト9,012個 など	産業観光課
				小麦「ゆきちから」1,800kg をあるじゃ大豆米加工施設で 加工し販売する	0	0	米粉パン等へ950kg使用 （輸入から鶴田産へ）	産業観光課
	③	各料理教室の開催	町における料理教室	年10回開催	180	144	12回実施済み	公民館
				年1回開催	0	0	農家女性生き生き講座調理実習 1月20日 29人	産業観光課
	計				180	144		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針			4 鶴田町において生産された農産物の当該地域内における消費（以下「地産地消」という。）の推進					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目			(3)地場産品を使用した学校給食の推進に関する事項					
ガイド ライン	・安全で安心な地場産品を使用した学校給食を提供するための生産・流通体制の整備を目指す			実 績			評 価	
				学校給食応援隊では今年度2, 4 2 1 kg納品した。りんごは町民や農業団体から2 2 6箱を無償で戴き、1 1月から翌3月まで学校給食に提供できた。				
実 施 計 画	事 務 事 業 名		事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	①	学校給食応援隊の活動推進	各農家から直接に地場産品を提供してもらう制度の確立	ジャガイモ、玉ねぎ等 2,200kg	0	592	じゃがいも387kg、漬け物384kg、長ネギ329kg等使用。順調に推移。	給食センター
	②	学校給食に地場産品の活用	米・りんご等の使用	米を県特別栽培農産物認証米「鶴の輝き」に変更 1 1月～りんごを提供	0	0	米を県特別栽培農産物認証米「鶴の輝き」で提供 りんごも11月から提供	給食センター
	計				0	592		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基本方針		4 鶴田町において生産された農産物の当該地域内における消費（以下「地産地消」という。）の推進					
ガイドライン項目		(4)町長、関係機関及び関係団体が行う事業における、地場産品の積極的使用に関する事項					
ガイドライン	・農業協同組合、あるじゃ、津軽ぶどう協会、各種農業団体等と連携し、地場産品の販路拡大を推進する			実績			評価
				町内外の多くのイベントにおいて賞品及び特産品販売で消費され、地場産品の紹介になった。			○
実施計画	事務事業名	事務事業内容	実施目標等	予算額（千円）	決算額（千円）	進捗状況等	担当課
	① 町内イベントでの地場産品の紹介	へら鮎釣り大会、つるたまつり、米消費拡大イベント「龍巻ずし」、農産物展、各種特産市等で紹介・販売	年6回開催	804	744	第2回津軽富士見湖さくらまつり5月3、4、5日 4日全国へら鮎釣り大会 ・鶴の恩返し 10本 ・鶴の輝き10kg 14本 ・まっしぐら5kg 21本 ・葡萄園2本入り 10箱 5日カラオケ大会 ・鶴の輝き10kg 1本 ・鶴の輝き5kg 1本 ・丹頂のささやき（赤）1本 ・揚げテンペ 25袋 北地方産直の日（あるじゃ） 7月15日 9月16日 11月18日 龍巻寿司（つるたまつり） 8月14日 鶴田高校体育祭へカレーライス用米40kg提供 町民文化祭でのコメ・リンゴ料理試食、果実糖度検査体験	産業観光課
		成人式・実年式・各大会などの記念品、賞品に活用	年3回開催	711	225	ことぶき大学運動会賞品、ファミリーフェスティバル等の賞品に活用	公民館
		フッドリバー市民と親しくする会、新年を祝う会で紹介	年2回実施	240	690	フッドリバー市民と親しくする会総会(5月31日)、新年を祝う会(1月5日)、外国青年による津軽弁大会(6月16日)	企画課
	② 町外イベントでの地場産品の紹介	川崎自治会イベント、川崎市民まつりで紹介・販売	年3回参加	346	346	川崎自治会イベントへ出店（セゾール・サンスクエア） 8月25日・26日 11月3・4・5日川崎市民まつり 12月6・7日もちつき	産業観光課
		ふるさと鶴田会、県庁鶴田会で紹介	年2回実施	580	332	ふるさと鶴田会総会(7月8日)、ふるさと鶴田会役員会(6月22日)、県庁鶴田会(6月8日)	企画課
	計			2,681	2,337		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基本方針		5 食育推進の強化					
ガイドライン項目		(1)食に関する様々な体験及び体感による学習の推進に関する事項					
ガイドライン	・保育所、幼稚園、学校で1年に1回は学習の実施を目指す				実績		評価
					・「子どもと一緒にクッキング」を6月14日から12月10日までの間に、全小学校において計20回実施した。 ・その他一般向けに減塩教室2回、地場産品を利用したお正月料理教室を3回実施した。 ・小学校6校で、米、りんご、野菜づくりの農業体験学習を実施。		
実施計画	事務事業名	事務事業内容	実施目標等	予算額(千円)	決算額(千円)	進捗状況等	担当課
	① ごはん作りの体験学習の実施	各学校対象	年1回実施	270	15	・「子どもと一緒にクッキング」全小学校 計20回 ・減塩教室 2回開催 ・お正月料理 3回開催	保健福祉課
	② 朝ごはん運動啓蒙人形劇等の実施	保育園児対象	各保育所等10施設で実施	50	0	講師不在により未実施	保健福祉課
	③ 朝ごはん運動推進体験学習の実施	各学校対象	年1回実施	0	0	米づくり体験 4校 りんごづくり体験 4校 野菜づくり体験 6校	教育委員会
	④ 地域子ども教室推進事業	各小学校を対象に親子料理教室「キッズインザキッチン」の実施	全小学校	0	300	9月1回・10月2回・11月1回実施	給食センター
	計			320	315		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		5 食育推進の強化					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(2)教育関係者の食育学習の推進に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・ 1年に1回は学校保健会などが中心となり食育学習等の実施を目指す				実 績		評 価
					栄養教諭配置により各学校で食育として6回実施		○
実 施 計 画	事 務 事 業 名	事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	① 食と栄養に関する学習会の実施	各小学校の教育関係者を対象	年6回実施	0	0	6回実施	給食センター
	計			0	0		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		5 食育推進の強化					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(3) 学校給食を通じた食育の推進に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・子どもの食に関する理解の促進と町の特色を生かした給食の提供を目指す				実 績		評 価
					郷土食や行事食で13回実施		○
実 施 計 画	事 務 事 業 名	事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	① 学校給食で郷土食、行事食メニューなどの実施	各小中学校を対象	年12回実施	0	0	13回実施	給食センター
	計			0	0		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		5 食育推進の強化					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(4) 国際交流による食育の推進に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・ 外国の食文化を体験及び学ぶことで、米食文化の再認識を目指す				実 績		評 価
					中学生大使のフッドリバー訪問時における外国食文化の体験及び事前のテーブルマナーにおいて、保護者同席参加による外国食文化の体験		○
実 施 計 画	事 務 事 業 名	事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	① 姉妹都市フッドリバー中学生親善訪問事業	外国の食生活を学ぶ	年1回実施 参加人員20人	2,084	1,352	年1回実施、参加人員24人	教育委員会
	計			2,084	1,352		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基本方針		6 米文化の継承					
ガイドライン項目		(1) 米の生産者と消費者との交流の促進に関する事項					
ガイドライン	・生産者と消費者との情報交流の場の設定を目指す				実績		評価
					川崎市の自治会やイベント、さらにはあるじゃでの「北地方産直の日」において農産物等の販売で消費者との交流を深めた。		○
実施計画	事務事業名	事務事業内容	実施目標等	予算額(千円)	決算額(千円)	進捗状況等	担当課
	① 町内外のイベントで地域産農産物等の紹介	各地で行われる特産品紹介イベント等に積極的参加	随時実施	0	0	川崎自治会イベント出店 8月25日・26日 11月3・4・5日 12月6・7日	産業観光課
	② 道の駅を中心とした情報交流の場の開催	農協及び農業団体が連携して消費者と交流	年3回開催	0	0	北地方産直の日(あるじゃ) 7月15日 9月16日 11月18日	産業観光課
	計			0	0		

平成19年度 朝ごはん運動実績報告

基 本 方 針		6 米文化の継承					
ガ イ ド ラ イ ン 項 目		(2) 伝統的な米文化の継承の推進に関する事項					
ガ イ ド ラ イ ン	・伝統的な行事と結びついた米文化の知識や農具・器具等の伝承を目指す ・地域における伝統的な米食文化の継承を目指す			実 績		評 価	
				川崎市京町小での田植え体験では、5年生100人以上の参加による田植えと稲の育て方について学習し、おコメへの関心を抱くなど好評であった。		○	
実 施 計 画	事 務 事 業 名	事 務 事 業 内 容	実 施 目 標 等	予算額（千円）	決算額（千円）	進 捗 状 況 等	担 当 課
	① 米文化の伝承事業	米づくり体験、餅つき大会の実施	3 小学校 川崎京町小（学校田体験学習）	72	70	川崎京町小（田植え体験） 6月5日 5学年90数名参加 合同子ども教室 おにぎりをつくろう 8月11日 鶴田小 三世代ふれあいまつり（餅つき大会） 9月29日 梅沢小 防犯もちつき大会（収穫祭） 11月21日 胡桃館小 くるみふれあいまつり（もちつき大会） 11月11日 菖蒲川小 三世代交流餅つき大会 11月23日	教育委員会 産業観光課
	計			72	70		

合 計	53,267	42,625
-----	--------	--------